

情報連携基盤センター外部評価の報告

松 原 茂 樹

情報連携基盤センターでは、7月8日(金)に外部評価を実施した。平成14年4月に大型計算機センターを改組し、創設されて以来、初めての開催である。大学の情報基盤に関する中核的拠点として推進してきたこれまでの取り組みについて、多角的に評価される貴重な機会となった。

外部評価を実施するにあたりセンターでは、渡邊豊英センター長を主査とする外部評価作業部会を設置した。平成17年1月から全5回開催し、評価対象の特定、評価委員の選定、及び実施要領の策定等について協議を進めてきた。また平成14年度から16年度までの3年間に渡る活動内容について取りまとめた。

外部評価では、情報連携基盤センターの全国共同利用施設としての役割、大学の教育研究活動への情報化支援組織としての役割、また学術情報基盤に関する研究機関として役割を重視し、4つの研究部門を中心とした研究活動、及び7つの専門委員会を中心としたサービス活動を主要な評価対象とした。

センターでは、設立当初から自己評価実施委員会を設け、毎年度末に自己点検・評価を実施するとともに、報告書を発行している。また平成16年度については、すでに情報連携基盤センター中期目標・中期計画・年度計画として活動項目を掲げ、計画の達成状況について評価している。今回の外部評価では、設定した目標・計画の方向性、及びその進捗について、評価委員の意見も交えて改めて検証する貴重な機会でもある。なお、報告書及び年度計画については以下のURLで公開している。

<http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/report/>

外部評価委員は下記の3名の先生に依頼した。

安達 淳先生 (大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所)

下條 真司先生 (国立大学法人 大阪大学)

姫野龍太郎先生 (独立行政法人 理化学研究所)

いずれも学術情報基盤に関する有識者であり、情報基盤の設計・開発・利用を実践的に推進されている。その一方で、委員の方々の専門分野は各々異なるため、センターが対象とする活動項目の広範な領域に対して、多面的な意見ならびに助言を受けることができた。

外部評価は、以下に示す次第で執り行われた。

1. 挨拶、教職員、評価委員の紹介
2. センターの概要説明
3. センターの施設視察

4. 研究部門の活動説明
5. 評価委員の講評



外部評価の様子

まず、渡邊センター長の挨拶に始まり、センターの教職員の紹介、及び外部評価委員の自己紹介を実施した。続いて、センターの組織及び活動（管理・運営・業務・運用・サービス等）についてセンター長が概説した。その後、センター施設視察として、全国共同利用サービス、全学サービス、ネットワーク、スーパーコンピュータ・アプリケーションサーバ、大学ポータル等、デモンストレーションを交えながら説明を行った。



センター施設の視察

つぎに、各研究部門を代表して、間瀬健二教授（情報基盤システムデザイン研究部門）、吉川正俊教授（学術情報開発研究部門）、宮尾克教授（情報基盤ネットワーク研究部門）、石井克哉教授（大規模計算支援環境研究部門）が、部門の研究開発及びサービス運用等を中心に、活動の詳細を述べた。

最後に、外部評価委員による講評を受けた。講評では、

- 全学サービスの形態と運用
- 業務推進の仕組みと外部委託の方法
- （研究科の講座ではなく）センターの部門としての研究の形態
- 学部や研究科など、教育活動への関わり
- スーパーコンピュータの運用・費用・効果
- 全国共同利用施設としてのセンターの位置づけ
- 大学におけるセンターの位置づけ
- 大学の情報戦略と企画・立案組織との関係
- 任期制など、教員の流動性
- センターとしての社会連携のあり方
- センターの方向性と将来

などを中心に、実に多くの貴重な意見・助言を得た。講評の内容などは、当日の配布資料等と併せ、すべて外部評価報告書としてまとめ、冊子ならびに Web 上で公表することになっている。詳細についてはそちらを参照されたい。

情報連携基盤センターでは、今回の外部評価の結果を踏まえ、必要に応じて活動の方向性を見直すなどにより、センターの存在価値を一層高めるための活動を今後も強力に推進する所存である。

（まつばら しげき：名古屋大学情報連携基盤センター学術情報開発研究部門、
外部評価作業部会幹事）